

この通信は、地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。

## 地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の目的

個性を活かした魅力ある地域づくりを推進するため、市内13地域において、それぞれの地域が目指すまちの将来像やその実現に向けた取り組みをまとめた「地域まちづくりビジョン」が策定され、平成30年7月に市長に提言されました。地域まちづくりビジョンフォローアップ会議は、地域が目指す将来像の実現に向けて、市民と行政と一緒にまちづくりを進めるため『地域まちづくりビジョン』に掲げる事業について、「行政に望むこと」「地域でできること」「私たちができること」のそれぞれのテーマにおいて、取組状況を報告し、各取組の今後の進め方や課題などについて情報共有、意見交換を行うものです。

## 大南地域まちづくりビジョンフォローアップ会議

■令和4年12月9日(金) 19:00~

■大南市民センター 会議室

### 開会

1. 会長あいさつ
2. 会長・副会長選任
3. 会長・副会長あいさつ
4. 議事

- (1) 会議の開会について
- (2) 地域まちづくりビジョンについて
- (3) 地域まちづくりビジョンフォローアップ会議について
- (4) 地域まちづくりビジョンに掲げる事業の取組状況について
  - ① 行政の取組状況について
  - ② 地域の取組状況について
  - ③ 質疑・意見交換
- (5) 今後の予定について

## 将来像 あすを ひらこう 南の大地

### 提言1：だれもが安全・安心で健やかな生活がおくれるまちづくり

#### (事業名) ①子育て環境の充実

- ・近所に、地域の人々が活用でき、子どもが気軽に遊べる公園や広場などの充実

#### <事業の取り組み状況>

- (地域)・竹中地域づくり協議会が小中学生の児童生徒を対象に椎茸のコマ打ち体験を行い、交流を深めている。
- ・交通指導員が、子どもの登校時の安全確保のため、交通指導を行っている。

#### [会議で出された意見等]

- ・通学路に危険な所が多いので、通学路を車が通らない河川敷に変更できないか検討している。(戸次校区)
- ・交通指導員の後継者がいないため、引き続きボランティアで行ってほしい。(戸次校区)
- ・交通指導員のなり手が少ないので、その募集のチラシを全戸に回覧している。(判田校区)
- ・子ども見守り隊として保護者が、積極的に活動している。(戸次校区)
- ・見守り隊の組織があるが、高齢化により人数が減っている。(吉野校区)
- ・危険個所に信号機の設置をしてもらうよう働きかけている。(吉野校区)

#### (事業名) ②安全・安心なまちづくり

- ・大雨時等の一時避難場所の確保(戸次地区)
- ・防災士のネットワークづくり、防災意識の啓発
- ・排水機能や防災無線など通信機能の充実

#### <事業の取り組み状況>

- (行政)・大雨時等の一時避難地としても利用できる防災拠点を戸次地区に整備する。令和6年度の供用開始を目標に令和4年度は造成工事に着手した。
- (地域)・防災士協議会の立ち上げに向けて協議を行っている。(戸次校区)
- ・「判田おたすけ隊」が、高齢者の困りごとの手助け及び高齢者の集いの場として「出前サロン」を実施している。

#### (事業名) ③スポーツ施設の整備などを通じ、元気な子どもたち、高齢者を増やす事業

- ・スポーツに親しむ場や機会をつくり、子どもや高齢者が一緒に利用することで、健康増進と多世代交流を促進
- ・クラブチームなどの活動拠点となる合宿所などの確保

#### <事業の取り組み状況>

- (行政)・大南地区にスポーツ施設を整備する方針を決定し、令和2~3年度は用地買収を実施した。令和3年度から一部工事着手をしており、令和4年度以降は造成、建設工事を行い、令和7年度の供用開始を目指す。

### 提言2：地域資源を活用したまちづくり

#### (事業名) ④自然を活かした農業体験、観光農業の促進

- ・大南の地の利を活かした農業体験、観光農業の促進
- ・農業生産者と消費者とのふれあいの場の確保

#### <事業の取り組み状況>

- (地域)・戸次校区の市民ふれあい農園では、野菜や花などの栽培を通じて、校区内外の方に農業に携わる機会を提供している。
- ・判田校区のふれあい広場では、ふるさとづくり協議会が希望者を募り、園芸教室を開催している。
  - ・吉野校区では吉野農業活性化協議会が中心となり、吉野小学校の児童を対象に「いも掘り大会」を開催した。

#### (事業名) ⑤地域交流・情報発信拠点の整備

- ・大南の魅力をPRできる道の駅のような拠点の整備
- ・地元の農産品、加工品の販売

#### <事業の取り組み状況>

- (行政)・市産の農業水産物等を活用した加工品等の研究開発や商品化、販路拡大の取組を支援しており、令和3年度は大南地区の2箇所の加工所の商品開発を支援した。
- (地域)・吉野、戸次の直売所や判田朝市で、農産物・加工品の販売を行っている。
- ・竹中校区の「コミュニティカフェたけや」が交流等の拠点施設となっている。
  - ・戸次本町街づくり推進協議会が、地域の出店者を募り、毎月第四土曜日にマルシェを開催している。

#### [会議で出された意見等]

- ・「コミュニティカフェたけや」では週3回程度オープンして食事を200円で提供している。コロナの影響で呼びかけはしていないが、行事があれば20名程度の利用がある。また、医学部の教授が3名来て健康講座を開いた。

#### (事業名) ⑥農林資源(薬草・竹林など)を活用した地域活性化

- ・薬草料理教室や薬草マイスターによる講座(養成講座含む)の開催
- ・地域資源を活用した商品開発などによる事業の創出



エキナセア

#### <事業の取り組み状況>

- (地域)・竹中地域づくり協議会が特産品の開発、ペニバナや椎茸の栽培を行っている。
- 「コミュニティカフェたけや」において、薬草などの自然素材を活かした健康食品等の開発・販売を行っている。
- ・他地域に居住している方と吉野校区の有志が集り、梅を使った名物料理の商品化に向けた開発準備を進めている。

#### [会議で出された意見等]

- ・「碧い海の会」よりハーブ(エキナセア)が商品化の可能性があり、苗を提供するので休耕田や荒地で栽培して欲しいとの呼びかけがあった。
- ・吉野公民館で名物料理開発教室のメンバーで、梅まつりに出店予定である。また、県主催の料理の研究会で発表した。

### 提言3：公共交通網等の整備による住みよいまちづくり

#### (事業名) ⑦コミュニティバスなどを活用した買い物弱者にやさしい地域づくり事業

- ・高齢者などの買い物弱者への支援のためのコミュニティバスの運行と併せ、ワンストップショッピングができる施設の整備
- ・中判田駅を起点に大南地域を循環するシャトルバスの運行

#### <事業の取り組み状況>

- (行政)・昨年の4月からグリーンスローモビリティ(低速電動バス)の実験運行を行っており、嶺・楠木生や、中判田駅と戸次のまちなかを結ぶ2ルートで運行している。
- ・グリーンスローモビリティが地域に根付いたモビリティとなるよう、利用者へのアンケート調査や地域の方々に意見を伺うなど、ルートやダイヤの見直しを進め、本格運行を目指している。
- (地域)・竹中地域づくり協議会が校区イベントの参加者を増やすため、交通手段のない地域住民を対象に、無料の送迎タクシー運行事業を実施している。

#### [会議で出された意見等]

- ・送迎タクシーのおかげで、イベントに参加する住民が増え、滅多に会わない人に会えるので嬉しい。(竹中校区)



### (事業名) ⑧中判田駅とその周辺の整備

- ・大分南高校の生徒も利用しやすい駅とするための利便性の確保
- ・周辺道路や駅前広場の整備 ・国道10号線の拡幅に伴う判田郵便局前交差点の改良等
- ・陸橋を無くすなど、駅のバリアフリー化の推進

#### <事業の取り組み状況>

(行政)・周辺道路の整備については、令和元年度に地元との意見交換を行い、令和3年度に道路概略設計及びJR踏切設備についての計画協議を行った。令和4年度も引き続き地元調整を行う予定である。

- ・中判田駅周辺の課題の整理や整備の方向性等を示した整備基本構想について、令和4年度中の策定を目指している。
- ・令和3年度に中判田駅構内において、JR九州が国・市の補助金を活用し、スロープや誘導用点状ブロック踏切による段差解消等の工事を行った。

#### [会議で出された意見等]

- ・中判田駅周辺の整備は10号線関連やスポーツ公園関連など個別で進んでいる。進んでいない項目がないように、項目ごとに進捗状況が確認できるようなフォローアップ会議にして欲しい。

### (事業名) ⑨住みよいまちづくりのための道路整備(いのちを守るための道づくり)

- ・地域の生活道、県道、市道などの整備(幅員の確保)
- ・白滝橋から竹中、河原内間の街灯の整備 ・県道大分大野線、弓立上戸次線の道路整備

#### <事業の取り組み状況>

(行政)・市道の整備については、地元要望を受ける中、道路用地等対策可能な個所については事業を行っている。街灯については、道路管理者である大分県では設置できないが、車両への注意喚起として交通安全施設の設置を行っている。県道の道路整備については、毎年要望を行う中、弓立上戸次線と中判田犬飼線を実施している。また、地域間を結ぶ市道川床楠木生2号線の整備など行っている。

## 提言4：住みたくなるまち、訪れたくなるまちづくり

### (事業名) ⑩住みたくなるまち、訪れたくなるまち大南を創る

- ・地域の自然、緑あふれる大地の活用
- ・大南の魅力を地域住民みんなで理解し共有するための情報提供やイベントの開催
- ・過疎地域におけるインターネット環境等のインフラ整備



大野川合戦まつり

#### <事業の取り組み状況>

(行政)

- ・大分市市域内過疎対策事業では、支所管内道路等特別配分枠の予算を支所に配分することにより、柔軟に対応できるようになった。令和4年度の取り組みとして、地域の活動に対する草刈りボランティア報酬金の追加支払いや、要望のあった市道や農道などの草刈り、道路清掃等を実施した。
- ・過疎地域におけるインターネット環境等のインフラ整備を進め、令和3年12月には、大南地域全域に高速インターネットサービスの供給が行き渡った。
- ・令和3年度は戸次本町にぎわい創出ワークショップの開催、大分市戸次本町地区空き店舗等活用支援事業戸次本町街づくり推進協議会と地域おこし協力隊との連携を行った。令和4年度は大分市戸次本町地区空き店舗等活用支援事業と戸次本町地区地域主体支援事業を行っている。

#### (地域)

- ・戸次本町街づくり推進協議会が、「よいやかがり火」や「街並みスケッチ大会」の開催、街並みボランティアガイド活動、「街並み瓦版」での情報発信などを行っている。
- ・判田の本宮山を守る会が、本宮山の登山道整備、景観保全の活動や登山会の開催などセラピーロードにもなっている本宮山の魅力を発信している。
- ・竹中八工釣り同好会が、地元の小学4年生、5年生を対象に、田植えと稲刈り体験を行っている。
- ・大野川合戦まつり実行委員会が、「戸次川原の合戦」を再現する「大野川合戦まつり」を3年ぶりに開催した。
- ・吉野校区の空き家情報をまとめたファイルの作成に向け、各自治会長が調査を行っている。
- ・各校区の健康といやしりの里づくり実行委員会が、イベントの際、地元の特産品を使った料理を振る舞いながら地域の魅力を発信している。
- ・戸次校区の課題解決に向けて年4回、戸次校区のビジョン委員を中心に会議を開き、ビジョン以外の課題についても協議を行っている。また、事業を短期・中長期の取り組みに分けて議論し、年度中に最終確認を行う。

#### [会議で出された意見等]

- ・「よいやかがり火」や「つきいちマルシェ」の際、帆足本家酒造蔵にてコンサートを行い、好評であった。

- ・戸次の空き店舗では令和4年度1店舗が開業し、来年度もカフェができるようである。
- ・吉野の空き家対策は空き家の調査をしたが、仏壇しまいができていないなどのため、あまり進んでいない。
- ・戸次本町は本年度多くのイベントを開催し、市内外からたくさんの方が参加され、また地域おこし協力隊員のおかげで活発な情報発信ができています。協議会のメンバーは高齢化しているが、若い人に協力してもらいうまくいっている。

### (事業名) ⑪企業誘致推進事業

- ・地域の実情に合った企業等の誘致で雇用を創出
- ・耕作放棄地などの転用や、農業の6次産業化の促進
- ・多方面にアクセスしやすい利点を活かした企業誘致

#### <事業の取り組み状況>

(行政)・企業立地推進事業は、本市への新設・増設等の設備投資や、新規雇用に対する助成などを行い、企業の立地を推進している。今後も県と連携し、積極的に企業を訪問する中、助成制度の内容や利便性の高い交通アクセスについて紹介するなどの誘致活動を行い、雇用の創出を図っていく。

- ・市産の農林水産物等を活用した加工品等の研究開発や商品化、拡大販売の取り組みに係る経費の一部について補助を行うとともに、セミナーを開催し、6次産業化に取り組む事業者等への情報提供やスキルアップを図っている。また、ブランド認証制度による6次化商品のPRを実施している。

### (事業名) ⑫市街化調整区域内における土地利用規制緩和等

- ・過疎地域内における耕作放棄地などの土地の有効活用
- ・市街化調整区域内の未利用の土地などを市が管理、分譲するなど地域に人を呼び込む仕掛けづくり

#### <事業の取り組み状況>

(行政)・優良な生産条件を備えた農用地区域内の農地については、人・農地プランや農地中間管理事業により担い手への集積を促進し、農業生産基盤としての有効活用を図るとともに、農用地区域外の農地については、転用時の手続きの迅速化に努めている。また、調整区域内の農地の利用の在り方について、関係部署と検討を行い、地域の実情を考慮し適切な運用が行える体制を整えた。

- ・大分市市域内過疎対策事業対象地域における土地利用緩和。一戸建て住宅・兼用住宅・共同住宅・農産物販売所・農産物加工所の建築が可能になっている。
- ・既存建築物の用途変更について、変更できる用途の拡大もしている。
- ・沿道サービス施設としてコンビニエンスストアの許可も可能となっている。
- ・分家住宅の許可を受けられる者を拡大している。
- ・今後も地域の活性化に向けた市街化調整区域の土地利用について、更なる調査研究を行う。

(地域)・吉野農業活性化協議会が、校区内にある耕作放棄地を集約して、校区外にある就労支援事業所が新規で参入できるよう協議を進めている。

## これからのビジョンフォローアップ会議について

#### [会議で出された意見等]

- ・フォローアップ会議の前に、どのような課題があるかを地域で話す機会を設けてから出席すべきである。
- ・各校区がどんな問題を抱えているか、どうしているか、どうしたらよいかを相談して、みんなで報告する連絡会だと思えばよいのではないかと。
- ・フォローアップ会議は報告・質問・意見の場にしたらどうか。
- ・フォローアップ会議の前に校区から報告書を出してもらい、議論を行えばよいのではないかと。
- ・会議の資料は事業名ごとでわかりにくいので、校区ごとの取組と課題でわかりやすくなるのではないかと。
- ・ビジョンフォローアップ会議の最終的な着陸点、どうなったら会議が役割を終えるかがわからない。各校区はそれぞれ独自の課題があり、私たちはどうしていけばよいのかアドバイスがほしい。
- ・ビジョンフォローアップ会議で地域づくりの問題点をみんなが継続的に共有することが大切である。若い人を取り込んで話し合う場所を作って、私たちや役所がそれを吸い上げ、課題解決に向けた担い手の円滑な世代交代をしていくことが大切である。

課題解決に向けて各校区で話し合いが必要であることを認識したので、事務局長(大南支所長)が、校区単位のフォローアップ会議の設立に向けて検討することをお願いし閉会となりました。

※本回覧物は大分市ホームページにも掲載しています。

■問い合わせ：大分市市民部大南支所 TEL：597-1000